

図書館と大学教育の連携 ～お茶大の事例を中心に～

私立大学図書館協会東地区部会研究部 2016 研修分科会
第1回 テーマ：大学教育の中での大学図書館の役割を考える
2016年6月2日(木)

お茶の水女子大学 図書・情報課長
森 いつみ
mori.izumi@ocha.ac.jp

1

本日の内容

- ねらい
アクティブラーニング形式で大学教育の中での
大学図書館の役割を考える
- Lesson 1 15:00～15:30 (Hop)
 - 課題グループ討議・発表
- Lesson 2 15:30～16:30 (Step)
 - お茶大の事例発表(質疑応答含む)
- Lesson 3 16:30～17:00 (Jump)
 - 解決策グループ討議

2

Lesson 1 15:00 ~ 15:30

- グループワーク
- 事前課題: 学習支援の実施事例をグループ内で共有する
 - 自分の大学で行なってる学習支援
(図書館に限らず、学内の実施例もOK)
 - 支援の内容や手段についての課題
- 各グループで出た事例を発表する

3

Lesson 2 15:30 ~ 16:30

- 図書館と大学教育の連携
～お茶大の事例を中心に～
 1. はじめに「図書館と大学教育の連携」とは？
 2. 自己紹介(学習支援関係を中心に)
 3. お茶大の図書館と大学教育とのかかわり
 - 新フンボルト入試とは
 - 平成27年度プレゼミナール
 - 「図書館入試」3つの背景
 4. 私たちがこれからできそうなことは？

4

はじめに: 図書館と大学教育の連携とは?

- 従来からやってきたこと(学習・教育支援として)
 - 教育内容に関連した蔵書・コンテンツの整備／提供<情報>
 - 授業外の自習場所の提供<空間>
 - レファレンスサービスや、利用者教育の延長としての情報リテラシー教育<人>
- 新たに求められていること
 - <情報・空間・人>という要素は同じ
 - その中身が変わってきた
 - どのように変わってきたのか?

どんなことが
変わったと
思いますか?

5

新たに求められていることは?

- 大学図書館の整備について(審議のまとめ)ー変革する大学にあって求められる大学図書館像ー(平成22年12月)

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1301602.htm

- 学習支援及び教育活動への直接の関与
- キーワード:
 - ー ラーニングコモンズ: 複数の学生が集まって、電子情報資源も印刷物も含めた様々な情報資源から得られる情報を用いて議論を進めていく学習スタイルを可能にする「場」
 - ー 図書館職員等が、それらを使った学生の自学自習を支援。教員や図書館職員だけではなく、大学院生や学部3、4年生などが自身の経験などに基づき下級生を指導する体制を組織化

6

新たに求められていることは？

- 学修環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議まとめ）（平成25年8月）

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/031/houkoku/1338888.htm

- キーワード：

- **学習環境充実に関わる学術情報基盤整備の三要素：**

コンテンツ、学習空間、人的支援が改めて定義された

- **アクティブ・ラーニング（能動的学修）**

「教育振興基本計画」（平成25年6月閣議決定）

学生の主体的な学びの確立に向けた大学教育の質的転換

「学生の主体的な学修のベースとなる図書館の機能強化」

という文言が盛り込まれた

図書館に
追い風が吹
いている

7

新たに求められていることは？

「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた
高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的
改革について（平成26年12月）

～すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために～」

はじめに - 高大接続改革が目指す未来の姿

これからの時代に**社会に出て、国の内外で仕事をし、人生を築いていく**、今の子供たちやこれから生まれてくる子供たちが、**十分な知識と技能を身に付け、十分な思考力・判断力・表現力を磨き、主体性を持って多様な人々と協働することを通して、喜びと糧を得ていくことができるようにすること。**

出典 新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について（答申）（平成26年12月22日）中央教育審議会
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1354191.htm

8

新たに求められていることは？

高大接続システム改革会議の『最終報告』(平成28年3月)

•背景

- 国内外の大きな社会変動(グローバル化・多極化の進展、新興国・地域の勃興／生産年齢人口の急減や地方創生への対応など)
- 「多様な人々と協力し主体性を持って人生を切り開く力」や「知識の量だけでなく、混とんとした状況の中に問題を発見し、答えを生み出し、新たな価値を創造する資質や能力」が重要である

•教育改革において身に付けるべき力「学力の3要素」

- (1)十分な知識・技能
- (2)それらを基盤にして答えが一つに定まらない問題に自ら解を見いだしていく思考力・判断力・表現力等の能力、
- (3)これらの基になる主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

・出典 高大接続システム改革会議『最終報告』平成28年3月、
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/033/toushin/1369233.htm

9

本日の内容

1. はじめに「図書館と大学教育の連携」とは？
2. 自己紹介(図書館と大学教育の連携にかかわることを中心に)
3. お茶大における図書館と大学教育とのかかわり
 - 新フンボルト入試とは
 - 平成27年度プレゼミナール
 - 「図書館入試」3つの背景
4. 私たちがこれからできそうなことは？

10

日本の大学図書館

自己紹介:これまでやってきた仕事

		受入	目録	電子化OA	参考	閲覧	ILL	教育	広報
東大総図 平成3年～	3カ月	○ ○	見習い						
東大駒図 平成3年～	4年 9ヶ月	外国 雑誌							
東大総図 平成8年～	3年				参考			リテラ シー	冊子
東大基盤 センター 平成11年～	1年							リテラ シー	
三重大図 平成12年～	7年		目録	IR	参考		ILL	リテラ シー	Web 冊子
国立情報 学研究所 平成19年～	6年	REO CLOCKSS	CAT	SPARC IR CiNii			ILL	研修	Web 冊子
お茶大図 平成25年～	3年 目	○ ○	プレイング・マネージャ						

11

日本の大学図書館

情報リテラシー関連(東大時代)

1996年～1998年

- 参考調査(レファレンス)@東大総合図書館
 - ・ インターネット黎明の頃: 検索手段としては未成熟。
 - ・ レファレンス・ブック主体: 全てを知っている必要はないが、ある事項を調べるための手段は知っていかなくてはならない。
 - ・ 利用者サービス: ある事項・事実を調べて答えるだけでなく、どのようにすれば自分で調べられるようになるのかを教えることも大事。

→利用者教育から情報リテラシーの時代へ

学術審議会. “大学図書館における電子図書館的機能の充実・強化について(建議)”. 文部科学省. 1996

JLA「図書館利用教育ガイドライン」1998

→北米の大学図書館を視察

12

情報リテラシー関連(東大時代)

1996年～1998年

- 情報リテラシー@東大情報基盤センター
- 情報リテラシーは単にOPACの使い方を教えるだけではなく課題解決能力を身に付けてもらうこと。
- 「頑張れば頑張るほど、いらなくなる存在？」
- まず親しんでもらう。ポップな案内・キャラクターの作成

目からウロコが落ちる日々
視点を変える・発想を変える
疑ってみる・考え抜く

13

情報リテラシー関連(三重大時代)

- 情報リテラシー@三重大学
- 初年次教育／教育の適時性
 - 1学年3000人→1学年1500人の世界
 - 頑張れば1年生全員に情報リテラシー教育ができる
 - 授業やゼミなどで年間200回以上の講習会
 - 医学／看護学の学生にはEBM／EBNをキーワードに
- 大学を取り巻く環境の変化
 - E-learning のはしり(全学でMoodleの活用が始まった)
 - ラーニングコモンズ前夜(Lib-Frontier, Web-Frontier)
 - 高校の「情報」科目の必修化
- インターネットの隆盛
 - Web2.0 →「ネットがあれば図書館はいらない」論
 - ますます「情報リテラシー」は重要に

14

NIIの6年を経て: 現在図書・情報課長 @お茶の水女子大学

- 管理業務
 - チームの皆が健康で楽しく仕事ができる環境づくり
 - 大学内や大学の外の動向にアンテナをはり、中期的・長期的なビジョンを持ち、情報共有。強みを活かし、新しい事業にチャレンジ
- 図書館関連(学内)
 - 図書館増築、新フンボルト入試(図書館入試)
- 図書館関連(学外)
 - 国公立大学図書館協力委員会 研修あり方WG主査
『大学図書館職員の専門性と研修あり方について(報告書)』(平成27年12月)
 - 国大図協・人材育成小委員会、教育学習支援特別委員会
『国立大学図書館協会 人材委員会 人材育成小委員会(人事政策検討班) 平成24年～25年度調査報告 - 業務委託と人事交流を中心に - 』(平成26年10月)
『高等教育のための情報リテラシー基準 2015年版』(平成27年10月)
- 歴史資料館: 創立140周年記念事業を、創立150周年に向けた記念誌編纂
- 大学内事務系システム・ネットワークの運用・将来構想

15

本日の内容

1. はじめに「図書館と大学教育の連携」とは?
2. 自己紹介(図書館と大学教育の連携にかかわることを中心に)
3. お茶大における図書館と大学教育とのかかわり
 - 新フンボルト入試とは
 - 平成27年度プレゼミナール
 - 「図書館入試」3つの背景
4. 私たちがこれからできそうなことは?

16

新フンボルト入試とは

- 時期: 2017年度入学者を選抜する入試から、従来のAO入試を改革した「新フンボルト入試」を開始
- 改革の目的: 潜在的な能力、とりわけ大学入学後の学びや社会に出た後に、その能力を大きく伸ばせる「のびしろ」を持った学生の選抜
- 定員: 現AO入試の2倍の20名
- 「現場密着型の研究と教育の一体化を提唱」した、ヴィルヘルム・フォン・フンボルト(ベルリン大学創設者)に因んで命名
- 一次選考を兼ねる文理共通のプレゼミナールと、二次選考(文系「図書館入試」、理系「実験室入試」)の二段構え
- 単に知識の多寡を問うのではなく、「課題を探求・発見」し、「必要な資料やデータを活用」し、「オリジナルな解を導き出す」力を測定する

17

新フンボルト入試(概念図)



平成28年度

入試パンフレットより

http://www.ocha.ac.jp/news/h280126/h280126_2.pdf

- プレゼミナール

↓

- 一次選考

↓

- 二次選考

文系「図書館入試」

- 1日目: 附属図書館で、図書などを自由に参照しつつ課題についてのレポートを長時間かけて作成する
- 2日目: グループ討論、面接

18

本日の内容

1. はじめに「図書館と大学教育の連携」とは？
2. 自己紹介(図書館と大学教育の連携にかかわることを中心に)
3. お茶大における図書館と大学教育とのかかわり
 - 新フンボルト入試とは
 - 平成27年度プレゼミナール
 - 「図書館入試」3つの背景
4. 私たちがこれからできそうなことは？

19

平成27年度プレゼミナール

- 2015年8月「新フンボルト入試」の体験版としてプレゼミナールを実施
- その中の一つのメニューとして、「図書館情報検索演習」を実施（「図書館入試」の模擬体験／実際の入試方法ではない）
- 「図書館情報検索演習」のプロセス
 - 1 「課題の提示」
 - 2 「情報探索レクチャー(図1)」
 - 3 「レポート作成(情報探索→執筆)(図2,3)」
 - 4 「グループディスカッション(図4)」

20

お茶の水女子大学
Tea no Mizonashi University

平成27年度プレゼミナール

「図書館情報検索演習」について



図1 情報探索レクチャー



図2 レポート作成 (情報探索)



図3 レポート作成 (執筆)



図4 グループディスカッション

21

お茶の水女子大学
Tea no Mizonashi University

平成27年度プレゼミナール

「図書館情報検索演習」について

- 重要なコンセプト:
 - ・「受験の有無、可否に関わらず、参加者にお土産を持ち帰ってほしい」(by入試推進室長)
 - ・「本学図書館を自由に使ってレポート作成、発表」
→いかに実現するか?
- 実現方策:3つの方針
 1. コンテンツは、ネットワーク上の情報環境を含め、本学の学部学生と同じ条件で使えること
 2. 人的なサポート体制を整えること
 3. 場所は、図書館のラーニングコモンズのパソコンや、グループディスカッションを行なうキャリアカフェを含め、図書館をフル活用できること

22

平成27年度プレゼミナール

「図書館情報検索演習」について

- 図書館スタッフが担当したこと:
 - 各プロセスに最適な環境の整備
 - 「情報探索レクチャー」
 - 「レポート作成(情報探索→執筆)」のサポート
- 関係部署(入試推進室、AO入試室、入試課、および情報基盤センター)と連携し、方針や実施内容、役割分担を検討
- 共通理解の一助として、国立大学図書館協会が2015年6月に公表した「高等教育のための情報リテラシー基準」も活用

23

平成27年度プレゼミナール アンケート結果

午前・午後に各1回実施し、88名が参加(回収数:81名)

1. 「情報探索レクチャー」の理解度:「とても分かりやすかった」44%、「分かりやすかった」29%、「少し難しかった」11%、「難しかった」4%
2. 有益度:「とても有益だった」72%、「有益だった」22%、「知っていることが多かった」2%、「ほとんど知っていることだった」0%
3. 「レポート作成の際のTA・図書館スタッフの支援や助言」:「有益で助かった」83%、「少し役に立った」12%、「あまり有益でなかった」0%「有益でなかった」0%

→これらの結果から、参加者の満足度が高かったことが窺われる
4. 「レポートのための材料として参照したもの」は、「図書館の蔵書+Webサイト」が最も多く、ついで「図書館の蔵書(紙媒体)のみ」

→学びの場で使われるコンテンツの傾向を垣間見ることができた

24

本日の内容

1. はじめに「図書館と大学教育の連携」とは？
2. 自己紹介(図書館と大学教育の連携にかかわることを中心に)
3. お茶大における図書館と大学教育とのかかわり
 - 新フンボルト入試とは
 - 平成27年度プレゼミナール
 - 「図書館入試」3つの背景
4. 私たちがこれからできそうなことは？

25

新フンボルト入試へのかかわり 「図書館入試」3つの背景

- そもそもなぜ、「図書館入試」を思いついてもらったのか
- 「教職協働」「教員との信頼関係の構築が大切」とはよく言うけれど？
 1. 2007年にラーニングコモンズやキャリアカフェを設置し、学内の学習支援部署とのネットワークを築きつつ学びの場を提供してきた
 2. 情報リテラシー教育に積極的に関与し、初年次教育の必修授業やクラス単位のオーダーメイド講習会を実施してきた
 3. 図書館内で行うTA(Teaching Assistant) 相当の学習サポーターとして、従来のICTリテラシー中心のLA(Learning Adviser)を、アカデミックスキルズ全般の支援を担うLALA(Library Academic Learning Adviser)にリニューアルした

26

お茶の水女子大学
Teikyo University

「図書館入試」3つの背景

1. 学びの場づくり(改革前)

【2006年4月時点】

入口

学生立入禁止の扉

入口にそびえる
カード目録ボックス

暗い廊下

27

お茶の水女子大学
Teikyo University

学びの場づくり(改革後)

壁のない図書館 ～共に学び、共に成長する場～

【2008年3月時点】

学生のスペースと職員のスペースはガラスの間仕切り。お互いが良く見える

図書館の理念

ラーニング・commons、
キャリアカフェを設置

28

お茶の水女子大学
Teikyo University

空間機能

ラーニングコモンズいろいろ



入口付近に
スタンドPC

講習会にも
使える
スペース

お互いに顔を合わせない
集中してレポート作成

29

お茶の水女子大学
Teikyo University

空間機能

キャリアカフェの使われ方-1



マイペースに
自習する学生も

イベント準備中

なごやかに
進路相談中

一般の利用者が
見ながら通る

30

空間機能

キャリアカフェの使われ方-2



アクティブ・ラーニングの例
学生主導の
「マーケティング講座」
テーマ:新しい商品開発

31

空間機能

キャリア関連イベントの様子 学生・キャリア支援センターとの連携



企業側:
大規模教室では見えない生のお茶大生が見える

大学/学生側:
日常的に行く図書館でやっているから、イベントの視認性高い

キャリアイベント@図書館 平成26年度実績
回数(企業説明会、OG懇談会等) 88回
延べ参加学生数 3,591名
(内訳) 前期 10回 参加学生 596名、後期 78回 参加学生2,995名

32

お茶の水女子大学
Teikyo University

空間機能

留学関連イベントの様子

国際課・グローバル教育センターとの連携



交換留学生の帰国報告会
@1階キャリアカフェ
→大人数OK!
やっていることが、参加者
以外にも伝わる

留学体験者相談会/
留学カリキュラムデザイン相談
@2階グローバルスタディー
コーナー
→より詳しい相談が可能

33

お茶の水女子大学
Teikyo University

空間機能

図書館の2階: 伝統的な図書館

- ・2階は学習のためのスペース
- ・本学蔵書68万冊のほぼ半数を所蔵
- ・文庫、新書、ビデオ、DVD等もあり



34

「図書館入試」3つの背景

2. お茶大の情報リテラシー講習会

- 第一期(2007～2008)
 - ・サービス担当常勤職員2名で細々と「論文検索講習会」を実施。
→ テーマは「効率的な文献の探し方」(DBの利用を伸ばす目的も)
- 第二期(2009～2012)
 - ・課内プロジェクトグループとしてリテラシー教育に取り組むことに。
 - ・サービス担当常勤だけではなく、非常勤さんや他の担当もメンバーに加わり、「図書館を使いこなそう!」と名称も変更。
→ DBの使い方だけではなく、図書館全体を学びに活かして欲しいという願いを込めた。
→ メンバーが増えたことで内容も充実。
 - ・並行して、教員の依頼を受けて「授業内ガイダンス」を開始。
→ 名称を「オーダーメイド講習会」に変更。

お茶の水女子大学附属図書館における『高等教育のための情報リテラシー基準』の活用事例
～担当者の自信と心の余裕につなげるために～2015.10.16 舘取直子さん発表資料より

35

「図書館入試」3つの背景

2. お茶大の情報リテラシー講習会

- 第三期(2012～2014)
 - ・「オーダーメイド講習会」依頼数が増加。リピーターも多数。
 - ・教員から、初年次の必修授業にした方が良いとの提案が!
→ その提案通りとはいかなかったが、1年生必修の情報処理関係の必修授業に組み込んで貰えることに! 1コマまたは半コマで実施。
 - ・オーダーメイド講習会の人気とは裏腹に、図書館主催の講習会の参加人数が減少...
→ 人気のRefWorks講習会のみ開催することに。
- 第四期(2015～)
 - ・2017年度入学者より、従来のAO入試を改革した「新フンボルト入試」として、文系に「図書館入試」を実施することに決定。
 - ・2015年8月に行われたプレゼминаールの「図書館情報探索演習」に全面協力。
1年生向け講習会をアレンジした情報検索レクチャーを担当。

お茶の水女子大学附属図書館における『高等教育のための情報リテラシー基準』の活用事例
～担当者の自信と心の余裕につなげるために～2015.10.16 舘取直子さん発表資料より

36

第三期あたりからの担当者の胸の内

もっとできることがありそう、でもどこまでできるのだろうか？

検索メインの講習会だったら自信を持って実施できる！

大学での学びに踏み込みたいけれど、先生はそこまで望んでいない...？

本当にこの内容で良い？

先生に聞いてみればいいのだけれど、どうやって話を持っていこう

そもそも自分たちがやっていることを見直したいけどちょっと怖い...

これまでの内容を大幅に変えるのも大変...

お茶の水女子大学附属図書館における『高等教育のための情報リテラシー基準』の活用事例
～担当者の自信と心の余裕につなげるために～2015.10.16 餌取直子さん発表資料より

37

楽しく見直すチャンス到来！

「高等教育のための情報リテラシー基準(ドラフト2.3)」への意見を出すために、体系表を使って1年生向け講習会テキストを見直すとともに、ドラフトの評価もしてみよう！

- ・2014年8月7日(木) 10:00～11:30
- ・リテラシー教育グループ前期活動レビューの会
- ・リテラシー教育G 6人+研修で来ていた東京都公立学校教員2名
- ・グループワーク形式

お茶の水女子大学附属図書館における『高等教育のための情報リテラシー基準』の活用事例
～担当者の自信と心の余裕につなげるために～2015.10.16 餌取直子さん発表資料より

38

高等教育のための情報リテラシー基準とは？

- 情報リテラシーを、高等教育の学びの場で必要な、課題認識から情報発信にいたるまでの情報活用能力としています。
- 高等教育の場で能動的学習(アクティブ・ラーニング)を進めるためには、汎用的技能としての情報リテラシーが欠かせないと考えられます。
- アクティブ・ラーニングを通じて、学生はその情報リテラシーをより高めていくと考えられます。

学習者が課題に取り組むにあたり情報を活用していくプロセスを6つに整理

1. 課題を認識する
2. 情報探索を計画する
3. 情報を入手する
4. 情報を分析・評価し、整理・管理する
5. 情報を批判的に検討し、知識を再構造化する
6. 情報を活用・発信し、プロセスを省察する

<http://www.janul.jp/j/projects/sftl/sftl201503b.pdf>

39

高等教育のための情報リテラシー基準活用体系表

情報リテラシー基準	情報リテラシー基準の活用	情報リテラシー基準の活用	情報リテラシー基準の活用
1. 課題を認識する	1. 課題を認識する	1. 課題を認識する	1. 課題を認識する
2. 情報探索を計画する	2. 情報探索を計画する	2. 情報探索を計画する	2. 情報探索を計画する
3. 情報を入手する	3. 情報を入手する	3. 情報を入手する	3. 情報を入手する
4. 情報を分析・評価し、整理・管理する	4. 情報を分析・評価し、整理・管理する	4. 情報を分析・評価し、整理・管理する	4. 情報を分析・評価し、整理・管理する
5. 情報を批判的に検討し、知識を再構造化する	5. 情報を批判的に検討し、知識を再構造化する	5. 情報を批判的に検討し、知識を再構造化する	5. 情報を批判的に検討し、知識を再構造化する
6. 情報を活用・発信し、プロセスを省察する	6. 情報を活用・発信し、プロセスを省察する	6. 情報を活用・発信し、プロセスを省察する	6. 情報を活用・発信し、プロセスを省察する

お茶の水女子大学
Tea Women's University

楽しく見直すチャンス到来！



- ①テキスト(ppt)を1枚ずつA3にプリント
- ②活用表の「初級」を切り取り、項目別に色分けしたものを数セット用意。
- ③どのスライドがどの項目に合致するか意見交換。合致する項目をテキストに貼る。
- ④すべてのページが終了したら、全体を見直してどの部分ができていたか、足りない分はどこかを検討。

お茶の水女子大学附属図書館における『高等教育のための情報リテラシー基準』の活用事例
～担当者の自信と心の余裕につなげるために～2015.10.16 餌取直子さん発表資料より

41

お茶の水女子大学
Tea Women's University

楽しく見直すチャンス到来！

見直しの結果

もやもやが少し解消♪

- ・講習会でカバーできている内容を確認できた！
- ・足りない箇所も分かった。そんなに手間をかけずに修正できそう！
- ・スライドが意図する効果(目的)が明確になったので、説明に説得力が増しそう！
- ・複数人でレビューしたことで、より客観的に評価できた！

改善へのモチベーションUP & これで良かったんだという自信

2015年度の新入生向け講習会のテキストに反映
※著作権に関するスライドを追加し、「引用」についての説明を強化

お茶の水女子大学附属図書館における『高等教育のための情報リテラシー基準』の活用事例
～担当者の自信と心の余裕につなげるために～2015.10.16 餌取直子さん発表資料より

42

再び活用表が活躍する機会到来

2015年8月

図書館入試プレゼミナールについての打合せ

- ・情報検索レクチャーの内容相談の際に教員に配布。
- 図書館で担当する(できる)こと、先生に担当していただきたいことの相談。表によって一目瞭然となり、すんなり役割分担できた。

2015年10月

後期に実施する講習会についてのリテラシー教育G打合せ

- ・図書館入試プレゼミナールを受け、再度講習会内容を見直し。
- 見直しへの抵抗感が減り、よりブラッシュアップできた。

改善点

- ・メディアの特性をより詳しく説明するスライドを追加。
- ・これまでのスライドで使っていたキーワードを体系表に合わせて修正。

お茶の水女子大学附属図書館における『高等教育のための情報リテラシー基準』の活用事例
～担当者の自信と心の余裕につなげるために～2015.10.16 餌取直子さん発表資料より

43

「図書館入試」3つの背景

3. ラーニングコモンズでの人的支援

- ラーニングコモンズを早い時期(2007年)に設置
 - ラーニングアドバイザー(LA)が常駐
 - 図書館のカフェでキャリア教育関連のイベントや学生の自主企画イベントが目白押し
- ラーニングコモンズといえばお茶大
→改修や身近な工夫で実現しているから参考になりそう

実際良く使
われている

ハッピー
オーラ♪

44

悩んでいたこと-1

空間／人的支援に関すること

- **経費**(LAの人的費／PC導入・保守費)
 - 特別経費「学生主体の新しい学士課程の創成 -21世紀型リベラルアーツと複数プログラム選択型専門教育-」
→平成25年度で終了
- **規模**
 - いつも混んでいる、席と席が近い
 - イベントをしていると自習スペースが足りなくなる
- **中身**
 - LAの業務内容はPCやプリンタのサポートが中心
→それって「ラーニング」アドバイザーと言えるの？
→いわゆる「アクティブ・ラーニング」の場になっているの？
 - 情報リテラシー教育支援のあり方は？

4 45

悩んでいたこと-2

蔵書・コンテンツに関すること

- **蔵書の配置**
 - 全学蔵書68万冊の半分が24か所の学科等図書室＋研究室に分散
 - ✓ キャンパス・マスタープラン(平成25年6月)で指摘
 - ✓ 平成24年度「外部評価報告書」(平成25年8月)で指摘
 - ✓ 学生からも、研究室配置の図書が使いづらいとの声
- **コンテンツ経費**
 - 円安影響／間接経費縮減傾向
 - ✓ 電子コンテンツ経費確保に課題
- **学生用図書／コンテンツのあり方**
 - 選書の在り方(何を)、提供の在り方(どのような形で)
 - シラバスとの連携／教育との連携

4 46

新しい展開

- 新図書館構想に取り組むことに(平成25年6月)
 - 附属図書館運営委員会の下にWGを設置
 - サブグループ(空間機能、蔵書・コンテンツ、人材育成)を設置
 - メンバーは、教員4名、職員4名

- 新図書館を創立140周年記念事業と位置付けることに(11月)
 - 寄付事業
 - 一部局から全学へ

ピンチは
チャンス!

47

新しい展開

- 新図書館構想WG報告書を提出(平成26年2月)

「創造的学びと人類智が交差する空間をめざして:
～お茶の水の源泉から世界の大海へ～」

新しい図書館の三つの柱(ビジョン)

- (1) 知の源泉となる蔵書・コンテンツの充実を図ります
- (2) 創造的学びの場としての空間機能を提供します
- (3) 人類智が交差する場として人と人とのつながりを支援します→新しい人材の開発育成・コミュニティ作り

48

お茶の水女子大学
Teikyo University

新図書館構想WGの取組み-1

- 建築の専門家を招いた勉強会



新しい学びの場として
どんな空間が必要なのか？

49

お茶の水女子大学
Teikyo University

新図書館構想WGの取組み-2

- 電子教材についての勉強会



教育開発センター
情報基盤センター
附属高校(情報)
の先生方も参加

アクティブラーニングのためには
どんなコンテンツが必要なのか？

50

アクティブ・ラーニングって？

- 「読解・作文・討論・問題解決などの活動において分析・統合・評価のような高次思考を行う学習」

山内祐平ほか「ワークショップデザイン論」慶應義塾大学出版会、2013.6

- ...Student must do more than just listen: They must read, write, discuss, or be engaged in solving problems.

Charles C. Bonwel and James A. Eison "Active Learning: Creating Excitement in the Classroom" ASHE-ERIC Higher Education Reports, 1991

アクティブラーニング(能動的学修)
のプロセスには静と動の両方がある
のでは

51

アクティブ・ラーニング実践例-1

- LIDEE“Life Innovation by Design and Engineering Education” <http://www.eng.ocha.ac.jp/lidee2013.pdf>

ワークショップ形式を基本とした「問題解決型」のプログラム

「アクティブ・ラーニング」としてのLIDEEの特徴

- ✓ **チーム作業**: 自分の考えを他者に伝え、また他者の考えを知ることが体験してもらうため、チームによる作業が基本
- ✓ **ワークショップ**: 結果では無く過程を重要視すること、多様な視点や考え方の「気づき」を体験してもらうため、ワークショップ形式での作業を行う
- ✓ **現場調査や専門家の参加**: 机上の議論だけでは無く街に出てヒアリングをするなど、現場での体験を重視。できるだけ外部の専門家をお呼びして、現場の声を聴く機会を設定

出典: 松田雄二『新図書館構想WG 空間SG「LIDEE」プログラムの報告』
平成25年9月10日 新図書館構想WG第2回打合せ資料

52

学習支援は大学内のどこで どのように行われているのか-1

- 「学修」支援系の組織
- 総合学修支援センター
 - 学修プロセスの構築をサポートします
 - 「複数プログラム選択履修制度」を全面的にサポート
 - 学内共同教育研究施設として、総合的な学修相談、学修指導などの支援を行い、本学の教育活動に資することを目的としています。
 - 教職員や専門のスタッフなどに、複数プログラム選択履修制度に関するさまざまな相談をすることができます。

55

学習支援は大学内のどこで どのように行われているのか-2

- 教育開発センター
 - 多次元的な学士力養成を担う総合的学修支援
 - 学修支援情報システム alaginの開発運用
 - alagin (Academic Learning and Achievement Guiding Information Network system) は、大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム「多次元的な学士力養成を担う総合的学修支援」事業において開発した学生にとっての学修支援情報システム(時間割表示システム+学修状況チェックシステム)です。
 - 学士課程における各科目のカリキュラム体系上の位置付や水準(ベンチマーク)を5種類のカラーコードで類別
いわゆるルーブリック?

56

学習支援は大学内のどこで どのように行われているのか-3

- 授業中で行われている(少人数制)
 - 例: イスラム研究の方法～論文執筆まで
 - オーダーメイド講習会: 文献検索～入手を図書館が講習
- 学科・コース、教員個人で行っている

>各学部・研究科対象のアンケート

卒業論文・修士論文等の執筆の手引きについて

- 「手引き」を作成されていますか? >>22の図書室に調査依頼
何らかの「手引き」作成: 1/3
ピアサポートを取り入れている講座もある

57

学習支援は大学内のどこで どのように行われているのか-4

● 学習・キャリア支援センター

2007年以降継続的にコラボレーション

— 今年度も各種イベントが盛況!

内定者体験報告会／内定者による就活サポートコーナー
日常的な進路・就職アドバイス／キャリアデザイン相談
企業合同説明会(ブースを複数設置)／OG懇談会

● 情報基盤センター

図書館内のパソコン活用は全てITセンターとの協働

— 特別経費終了後の安定的サービスに向けて協働

IT関連の学習環境(モノ/ヒト)の整備は経常的に必要

58

日本の大学図書館
Library Academic Learning

学内学習支援リサーチまとめ

- 学習支援は学内の各所で実践されているが全体としての連携は・・・？
- 図書館がオープンマインドであることは学内で認知されている

→ハード面だけではなくソフト面で展開
→ニッチなニーズの掘り起し
→個別に動いているプロジェクトを繋ぐ役割

★大学が目指す方向性に沿って
学内で学習支援の活動に欠かせない存在となること

★アカデミック・ラーニング・アドバイザーの新設

59

日本の大学図書館
Library Academic Learning

アカデミックラーニングアドバイザー-の 予算要求

図書館ラーニングコモンズ(LC)における
学習/研究支援機能の強化 Part II (案)

2014/3/7
2014.9.10

平成25年度まで

平成26年度から

学内支援

学外支援

LA (新設)

Faculty

STAFF

サポート

フィードバック

コミット

● 人員:
LA(ラーニングアドバイザー)
→TA(一部AA)

● サポート内容:
図書館閉館中常駐
ICTサポートが主

● 財源:
- 特別経費「学士課程」

● 人員:
- 教員/職員/MA/TA/TA
ラーニングアドバイザー)等

● サポート内容:
- コアタイムのみ
- 学習支援/研究支援
- 情報リテラシー教育支援
- 文献検索・管理・活用
- ITサポート
- 具体的な内容は審議中

● 財源:
- 学内経費
- (科目名分の経費)

結果的に平成26年度～LALA(Library Academic Learning Adviser)を置けることに。

60

お茶の水女子大学
Teikyo Gakuin University

LALA (Library Academic Learning Advisor) 広報資料より

LALA(ララ)とは?

- 100名以上のFacultyと協力して活動。
- 教員、学生の専門的知識を活かして学生をサポートし、質の高い授業を創出する。
- 11のラーニングセンターと連携して活動。
- 2014年度から2015年度にかけて、LALAの役割をさらに広げ、学生をサポートする。

LALAの役割は?

- 学生が授業で学ぶ内容を理解し、活用できるようにサポート。
- 授業外の学習時間をさらに充実させる。

LALAデスクとは?

学生が大学院生のサポートを受けられる相談デスクです。

- 授業で学ぶ内容を理解し、活用できるようにサポート。
- 授業外の学習時間をさらに充実させる。

学生の声

LALAの声

授業外の学習時間がさらに充実！

ぜひ、学生に活用をおすすめください！

61

お茶の水女子大学
Teikyo Gakuin University

参考: LALA (Library Academic Learning Advisor) 平成26年度実績と平成27年度体制

- 体制: LALAデスク1コマ1名
- 比較社会専攻: 5名(後期:5名、前期:0名)
- 理学専攻: 3名(後期:1名、前期:2名)
- ジェンダー専攻: 3名(後期:2名、前期:1名)
- 計: 11名(応募13名)※)

● 授業期間中のコマ

	①9:00~12:00	②12:00~15:00	③15:00~18:00
月	理学/後期	比較社会/後期	ジェ/前期
火	比較社会/後期	理学/前期	比較社会/後期
水	ジェ/後期	理学/前期	比較社会/後期
木	比較社会/後期	ジェ/後期	理学/後期
金	ジェ/後期	比較社会/後期	理学/前期

● 授業期間外のコマ

	④10:00~13:00	⑤13:00~16:00
月	ジェ/後期	比較社会/後期
火	比較社会/後期	理学/前期
水	比較社会/後期	ジェ/前期
木	ジェ/後期	理学/後期
金	理学/前期	ジェ/後期

※)1名留学したため、後期から10名体制

- LALAデスク開設日/質問件数(忘れ物対応等を除く)
- 授業期間中: 162日、2,831件 1日平均17.5件
- 授業期間外: 28日、96件 1日平均 3.4件

● 時間帯ごとの質問の割合

授業期間中: ①28.9% ②37.7% ③33.5%

授業期間外: ④50% ⑤50%

→いずれの時間帯にも同程度の質問が来ているが、授業期間外に関しては絶対数が少なく、12:00~15:00の間に質問が集中

● 平成25年度との比較(授業期間中1日3時間減)

質問数: 月平均で5割増し

平成25年(7ヶ月間:9月-3月):1,251件(179件/月)

平成26年(10ヶ月間:4月-1月):2,831件(283件/月)

アカデミックスキルズ※)に関する質問数: 月平均で倍増

平成25年(7ヶ月間:9月-3月):35件

平成26年(10ヶ月間:4月-1月):98件

※)レポート/論文の書き方、授業の課題、情報検索、図書館案内

● 平成27年度:大学院生TA 7名(継続3+新規4)、RF 1名でローテーション

62

本日の内容

1. はじめに「図書館と大学教育の連携」とは？
2. 自己紹介(図書館と大学教育の連携にかかわることを中心に)
3. お茶大における図書館と大学教育とのかかわり
 - 新フンボルト入試とは
 - 平成27年度プレゼミナール
 - 「図書館入試」3つの背景
4. 私たちがこれからできそうなことは？

63

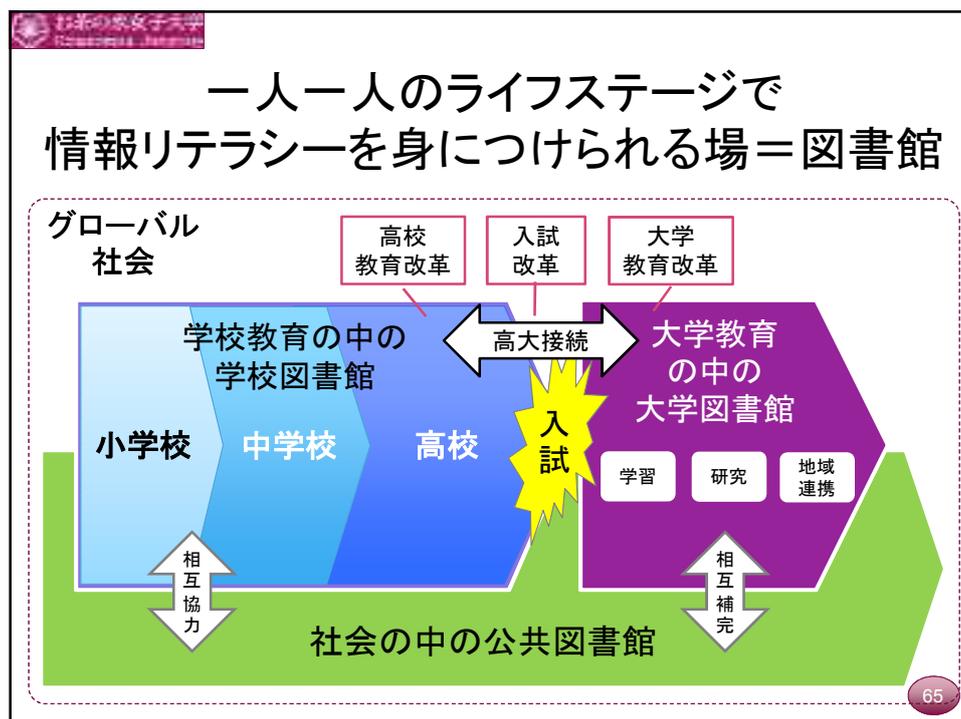
高大接続システム改革の狙い

『最終報告』(平成28年3月)より

- 「先行き不透明な社会で生きる人々に不可欠な資質・能力を育成する場である高等学校や大学は、我が国社会の基盤を形成するための公共財」
- 「置かれた境遇を問わず、全ての人々が充実した教育を通じて高い資質・能力を身に付け、それぞれの選ぶ道で輝き活躍できる社会の実現」
- 「関係者はもちろん広く社会全体で知恵を出し合いながら取り組む必要がある」

・出典 高大接続システム改革会議『最終報告』平成28年3月,
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/033/toushin/1369233.htm

64



**これからの「図書館と大学教育の連携」を
考えるには？**

図書館の外側から発想する

- 「図書館が」何をすべきか、から考え始めると、なかなか殻が破れない
 - 学生さんは、何を求めているんだろう？
 - 教員は何を求めているんだろう？
 - 大学は何を求めているんだろう？
- 新しいことをしようとする人は結構孤独
いかに寄り添い、課題解決に導くためのリソースになれるか？
→あなたの周りに困っている人はいませんか？
→話せる「人」をつくるのが、第一歩

ヒントは外にある
答えは中にある

66

Lesson 3 16:30 ~ 17:00

- グループワーク
- グループで解決策についてディスカッションする
 - Lesson1で共有した課題
 - 新たに生じた問題意識
 - やってみたいこと・やれそうなこと
 - お土産を持って帰れるように！職場内でもぜひ共有を！
- 各グループで出た事例を発表する

67

参考情報

- 大学ニュース「お茶大発新型AO入試(新フンボルト入試)について」 <http://www.ocha.ac.jp/news/h280126.html>
- ブログ記事「この夏、お茶大が暑い！新フンボルト入試プレゼミナール2015開催」
<http://ochadailisa.blog32.fc2.com/blog-entry-1037.html>
- カレントアウェアネスE「お茶の水女子大学「図書館入試」実施に向けたプレゼミナール」<http://current.ndl.go.jp/e1717>
- 大学図書館における先進的な取り組みの実践例(Web版)「大学での学び方を学ぶ「図書館入試」の試み」
http://www.mext.go.jp/a_menu/kaihatu/jouhou/1341375.htm
- 読売教育ネットワーク「入試改革で学びの「中核」に――大学図書館の未来像」
<http://kyoiku.yomiuri.co.jp/torikumi/jitsuryoku/iken/contents/post-417.php>

68